

2025年度 数理情報系女子学部生サマーキャンプ 実施報告

1. 事業概要

本事業は、数理・情報系分野を専攻する女子学部生を対象として、大学院進学や将来のキャリア形成に関する理解を深めることを目的に実施したものである。

数理情報系分野では、女性研究者の割合が依然として低く、進学や研究職選択に際して身近なロールモデルに接する機会が限られているという課題が指摘されている。本事業では、大学院生・若手研究者・企業研究者等との交流機会を提供することで、進学・研究に対する不安の軽減および将来像の具体化を図ることを目的とした。

本サマーキャンプは2024年度に続く2回目の開催であり、全国の大学から多様なバックグラウンドを持つ女子学生が参加した。

2. 実施概要

- **事業名**：数理情報系女子学部生サマーキャンプ
- **実施期間**：2025年9月7日～9日（3日間）
- **会場**：大学セミナーハウス（東京都八王子市）
- **主催**：
慶應義塾大学理工学部数理科学科
東京科学大学 社会連携・DE&I本部 DE&I部門
東京大学大学院数理科学研究科
広島大学 WPI-SKCM²
理化学研究所 革新知能統合研究センター
- **協賛**：三菱HCキャピタル株式会社、株式会社バオバブ
- **参加者**：全国の数理・情報系女子学部生、大学院生、教員、企業研究者等

3. プログラム概要

(1) 講演・キャリア紹介

大学院生、若手研究者、企業研究者による講演を実施し、以下の内容について共有が行われた。

- 学部から大学院への進学プロセス
- 研究テーマの選択方法
- 大学院生活の実際
- 博士課程進学・企業就職それぞれの進路
- 研究と生活の両立、キャリア形成上の工夫

参加者にとって、進路選択を具体的にイメージできる内容となり、特に大学院進学に対する心理的ハードルの低下につながった。

(2) パネルディスカッション・質疑応答

複数の大学院生・研究者・企業勤務者が登壇し、参加者からの質問に回答する形式で実施した。

進路選択、大学院入試、研究生活、就職活動など、学生が抱きやすい不安に対して具体的かつ実践的な助言が共有された。

特に、

- 進学に迷った際の判断基準
- 研究分野の選び方
- 失敗や回り道の経験

といった話題は参加者の関心が高く、活発な意見交換が行われた。

(3) グループワーク・交流企画

学部生・大学院生・教員・社会人が混在するグループを編成し、以下のテーマについて議論を行った。

- 研究や進学に対するイメージ
- 将来のキャリア像
- 不安や悩みへの対処方法
- 大学院進学後の生活像

また、チームビルディングを目的としたワークやポスター作成を通じて、参加者同士の交流を促進した。

学年や所属を越えた対話が生まれ、参加者同士が継続的につながるきっかけとなった。

(4) 大学院生によるポスター発表

大学院生による研究紹介ポスター発表を実施し、数理・情報分野の多様な研究テーマが紹介された。

学部生にとっては、研究内容だけでなく「研究の進め方」や「研究者としての姿勢」に触れる貴重な機会となった。

4. 成果と効果

本事業を通じて、以下の成果が確認された。

- 大学院進学や研究職に対する心理的ハードルの低下
- 進路選択に対する具体的なイメージの形成
- 同分野を志す学生同士のネットワーク形成

- 女性研究者・大学院生を身近なロールモデルとして認識する機会の提供

参加者アンケートからは、

「進学を前向きに考えるようになった」

「研究者の話聞いて将来像が明確になった」

「同じ立場の仲間と出会えたことが心強かった」

といった声が多く寄せられ、本事業の有効性が確認された。

5. 今後の展望

数理情報系分野における女性人材の育成には、早期からの継続的な支援と、安心して相談できる環境づくりが不可欠である。本サマーキャンプは、そうした環境形成に寄与する有意義な取り組みであり、今後も継続的な実施が望まれる。

今後は、

- フォローアップイベントの実施
- 参加者間ネットワークの継続的活用
- 地域・大学間連携の強化

を通じて、より多くの女子学生が自らの進路に自信を持って選択できる環境づくりを進めていく予定である。